現地レポート／緒方 しらべ（文化科学研究科　比較文化学専攻）

派遣先：ナイジェリア連邦共和国

派遣先機関名：オバフェミ・アウォロウォ大学美術学部

派遣期間：2011 年 5 月 27 日～2011 年 7 月 11 日

2011 年 6 月 29 日報告分

授業・研究の進捗状況

研究は、計画どおりのハイペースではないが、まずまずのペースで順調に進んでいる。限られた調査期間において、数人の人びとと、数か所で約束をして会いに行くこと、時間を過ごすことは容易ではないが、ひとつひとつ、できることからこなすようにしている。具体的には、以下のような調査をこの 1 か月間おこなった。なお、残り約 1 週間強も、ひきつづき以下の内容で調査をつづける予定である。
大学の美術学部では、学部の教員たちの研究室や図書室を訪れ、大学のとりあげるイレ・イフェのアート（美術史）の調査をおこなった。そして、昨年同学部でおこなわれた学会で主題としてとりあげられたイレ・イフェのアートと、わたし自身の調査しているイレ・イフェのアートを比較し、調査の視点やアートの認識の差異について、セミナーで教員や大学院生・学部生たちとディスカッションをおこなった（2011 年 6 月 28 日にセミナー開講）。同学部の教員 8 名、学生 45 人をふくむ 50 人を超えるアカデミック・アーティストたちと交換した意見や議論した内容は、おもに人類学と美術史の視点から研究をおこなうわたしにあらたな洞察をあたえてくれるものだった。
街でおこなう調査では、博士論文で中心的にとりあげる約 10 人のアーティストたちに、彼らの近況や、これまでの調査で尋ねることができなかったことをインタビューした。また、これまで見ることのできなかった作業（作品制作）過程を見たり、彼らの家族や親せき、友人を訪ねている。そして、アーティストに限らず、彼らの周りの人びと（家族・親戚・友人・近所仲間・職場仲間・教会のメンバー・社会組織のメンバーなど）にも、アートとはなにか（それは何をさしているのか、どのような定義か）について、個別に聞き取りをおこなった。

生活関連状況

健康、安全、通信、経済など、基本的に生活面すべてにおいて大きく困っていることはない。ただ、今年 5 月に誕生したナイジェリア連邦政府の新政権の方針や、新政権誕生前後の不安定な状況の影響で、昨年の滞在時（2010 年 5 月から 8 月）よりも物価（食糧、燃料、日用品、交通費）が 1.2 倍から 1.5 倍に上がっている。このため、生活費・調査費を予算計画時以上に計画的に、慎重に、消費するよう心がけている。

その他報告すべき事項

とくにない。